

大学院
国際芸術創造研究科
アートプロデュース専攻説明会

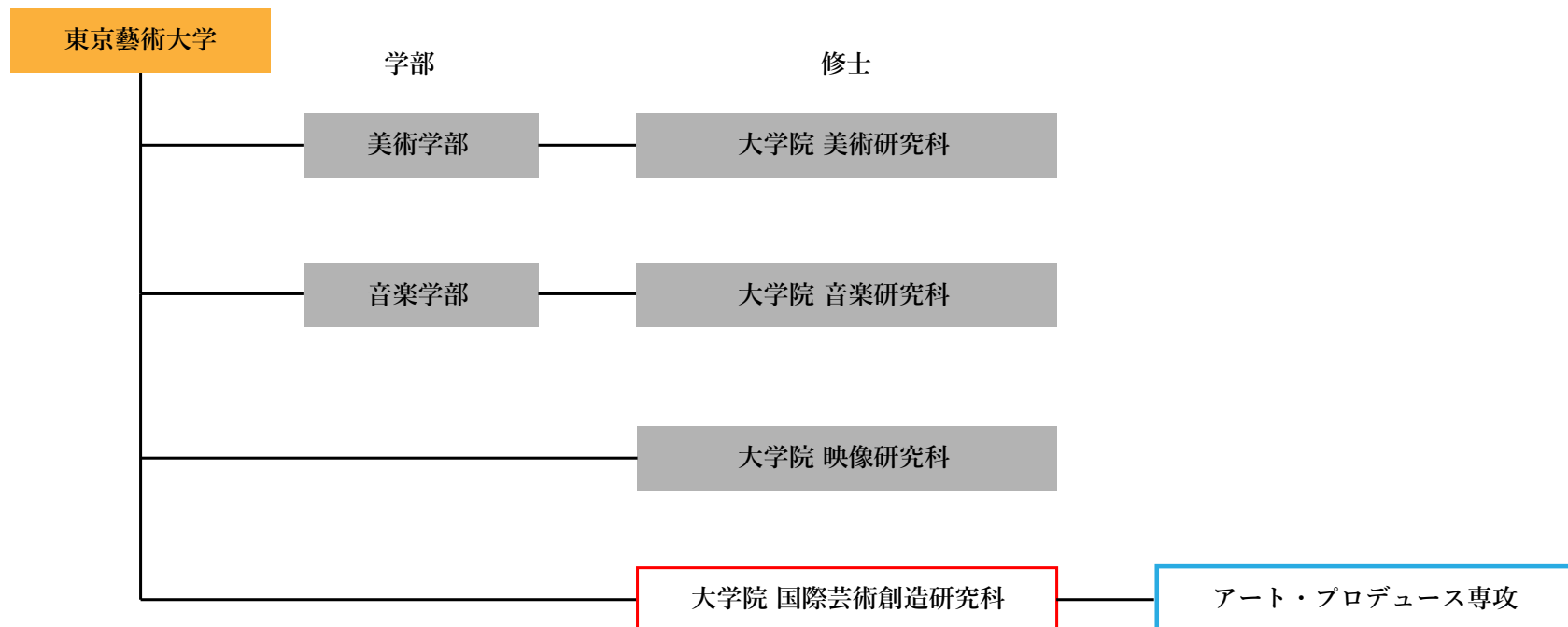
Graduate School of Global Arts

Course of Arts Studies and Curatorial Practices

新研究科の概要

大学院 国際芸術創造研究科 Graduate School of Global Arts

アートプロデュース専攻 Course of Arts Studies and Curatorial Practices



国際芸術創造研究科

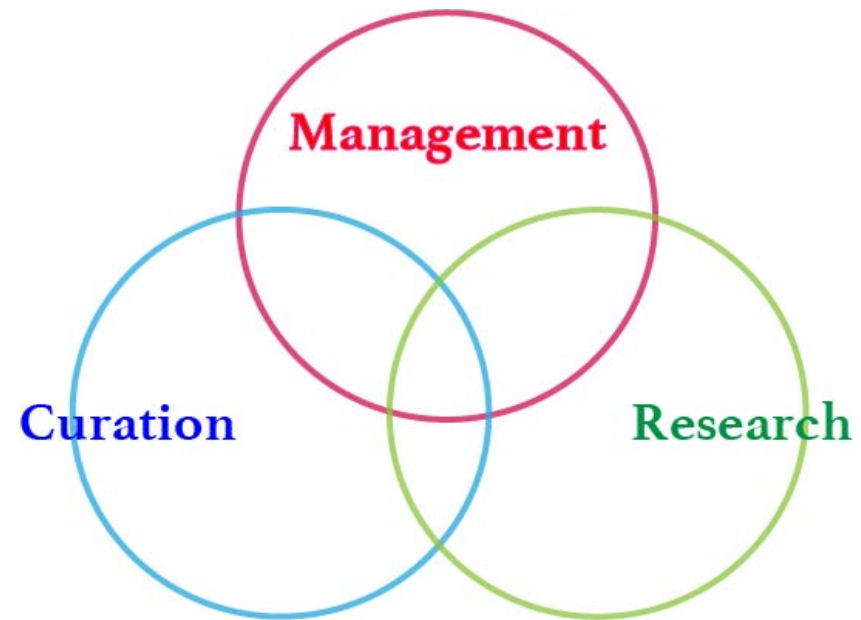
アートプロデュース専攻について

設立理念

アドミッション・ポリシー

大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻は、今日のグローバル化とそれに伴った芸術と社会の変化に対応するために、芸術文化のさまざまな実践を横断的かつ有機的に結びつけながら、芸術と社会との新しい関係を提案する人材を育成することを目指している。

この理念を踏まえて、本専攻では、キュレーション、アートマネジメント、芸術文化の調査研究の領域においてグローバルなレベルで活躍できるための知識と創造力、そして実践的な能力を持ち、真摯な態度で研鑽を積むことのできる学生を求めている。



特色：3つの専門領域

キュレーション | Curatorial Practices

芸術、キュレーションに関する批評理論を実践的に取り入れながら、展覧会の企画実践を通じて、キュレーションの理論と実践を学習する。

担当教員：長谷川祐子・住友文彦

アート・マネジメント | Arts Management

美術・音楽・映像などさまざまな領域のアートマネジメントのあり方を、その理論と歴史を踏まえつつ、主として〈現場〉における実践を中心に学ぶ。

担当教員：熊倉純子・箕口一美

リサーチ | Research

芸術文化を社会学、メディア文化研究、文化経済学、文化政策学などの社会科学的な視点から調査・研究しながら、その社会との関係を考察し、今後の在り方を研究する。

担当教員：枝川明敬・毛利嘉孝

特色：国際性

グローバル化に対応した教育体制

国外の芸術機関・芸術大学との連携など



公開シンポジウム
グローバル時代の芸術大学の未来

グローバル化の時代、芸術大学はどのように変化するのだろうか？
デミアン・ハーストやステイヴ・マックイーンなど
イギリスを代表するアーティストを輩出し、
メディア文化研究や社会学で国際的に高い評価を受ける
ロンドン大学ゴールドスミスカレッジの
パトリック・ロックリー学長を迎えて、
芸術大学の未来について徹底的に議論する。

The Future
of the Art University
in the Global Age

2015年5月26日(火) 18:10-20:30

会場：東京藝術大学音楽学部上野キャンパス 5-109
主催：東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化芸術環境創造領域
大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻準備室
お問い合わせ：mouri@ms.geidai.ac.jp ※予約不要・入場無料・日英通訳有

開会のご挨拶：
渡邊健二
(東京藝術大学教育担当理事・教授)

シンポジウムパネリスト：
パトリック・ロックリー
(ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ学長)

熊倉純子 (東京藝術大学教授)
市村作知雄 (東京藝術大学准教授)

司会：
毛利嘉孝 (東京藝術大学准教授)

Patrick Loughrey
(Warden of Goldsmiths, University of London)

ロンドン大学ゴールド・スミスカレッジのパトリック・ロックリー学長を招いたシンポジウムの様子 (2015年5月26日開催)

育成される人材像・期待される進路

- ① 国際美術展や各種地域アートプロジェクト、音楽マネジメント、コンサートホールのマネジメントを担える人材
- ② 芸術文化の形式の変化、芸術理論の枠組みのイノベーションに対応しつつ、展覧会や芸術文化イベントのキュレーションを担当できる人材
- ③ 芸術と社会との関係を調査研究し、学術的な発信をグローバルに行うとともに、アカデミズムだけではなく広く社会に対して芸術と文化の新しい関係の提言ができる人材

具体的な進路：

国際芸術文化機関（UNESCO、国連関係）、国内外の文化政策・文化事業運営に関わる機関（政府系芸術支援機関）、芸術NPO、美術館やコンサートホール等文化施設、学芸員、各地の国際美術展のキュレーター、メディア広告などの文化産業、国内外の教育機関

開設予定科目

基礎科目

概論（1年次）と特論（2年次）に分けられる基礎科目、講義を実施。

「アートプロデュース概論」 「アートプロデュース特論」

実践科目 | 演習・プロジェクトをベースに実践的なプログラムを実施。

「アートプロデュース演習」 「アートプロデュース特別演習」

特別研究 | 専任教員による修士論文の指導。

その他開設予定科目（予定）

「美学」、「音楽文化史」、「著作権概論」、「映像プロデュース概論」、
「芸術と情報」、「芸術文化批評方法論」、「アジア文化研究」など。

設備・環境

上野キャンパス

東京都台東区上野公園 12-8

主な設備： 芸術情報センター
東京芸術大学大学美術館
※ 新施設整備予定

千住キャンパス

東京都足立区千住1-25-1

主な設備：
第7ホール（演劇・パフォーマンスホール）
スタジオA・B（録音・音響設備）

今後の構想

博士後期課程の設立（平成30年度を予定）

大学院 音楽研究科音楽文化学専攻に関して

平成28年度以降、大学院音楽研究科音楽文化学専攻芸術環境創造研究分野（修士課程）及び応用音楽学研究分野（修士課程）は国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻に移行するため募集は行わない。

※博士後期課程の募集は平成29年度をもって終了

応用音楽研究分野博士論文テーマ(文化政策関連)

赤木舞(現昭和音大講師)『オーケストラの効果的運営のあり方に関する日米比較研究—ホール・地域との連携を中心として—』

朝倉由希(現静岡県立芸大文化・芸術研究センター共同研究員, 非常勤講師)『公共ホールの運営評価に関する研究』

石田麻子(現昭和音大教授)『日本のオペラ公演に関わる組織、観客および作品のマネジメント研究—劇場を中心とした枠組みの構築に向けて—』

伊志嶺絵里子(現東京芸術大学音楽学部非常勤講師)『シンガポールの芸術政策におけるブランド戦略の変遷と今後の展開—パフォーミング・アーツを中心として—』

小島レイリ(現早稲田大学・商学大学院・助教)『大型芸術機関の運営に関する研究：日米比較を通して』

小山文加(現東京芸術大学音楽学部助教, ヤマハ音楽研究所研究員)『日本社会におけるプロフェッショナル・オーケストラの形成過程』

佐藤良子(現昭和音大講師)『文化施設における人材の育成方策についての研究—組織論的な面からみた音楽ホールの果たす諸機能を支える専門的な人材の育成』

角美弥子(現北海道教育大准教授)『琵琶楽の保存と継承について—現状分析と記録保存のあり方を中心に—』

沈 民珪『韓国の無形の民俗文化財の保護政策のあり方に関する研究—日本の保護政策との比較において—』

永島茜(現武庫川女子大学講師)『フランス音楽政策の変遷とその新たな展開—公的関与の論理と政策理念の検討を中心として—』

福田裕美(現東京音大講師)『民俗芸能の保護をめぐる文化財政策の研究—地域社会における保護政策の運用を中心に—』

関鎮京(現北海道教育大准教授)『音楽を中心とする公演芸術政策についての日韓比較研究—韓国の現状と課題及び日本を参考にした今後のあり方—』

音楽文化学 芸術環境創造分野博士論文テーマ

岡田 智博 (熊倉研究室)

『IT関連クリエイティブ産業の発展と創造クラスターの相関関係
：アムステルダム・札幌・モンリオールの都市事例を中心に』

横堀 応彦 (市村研究室)

『創作プロセスとドラマトゥルギーの変容に関する研究
— 1990年代以降のドイツ語圏および日本における事例を中心に —』

長津 結一郎 (熊倉研究室)

『障害者の芸術表現活動と「共犯性」』

吉田 隆之 (熊倉研究室)

『都市型芸術祭の経営政策：あいちトリエンナーレを事例に』

中村 美亜 (論文博士 | 毛利研究室)

『生き抜くための音楽実践 — 芸術・文化・ケアを斬り結ぶ社会学的考察 —』

小泉 元宏 (毛利研究室)

『「社会と関わる (Socially Engaged Art)」の展開
— 1990年代-2000年代の動向と、日本での活動を参照して —』

キュレーション | Curatorial Practices

長谷川 祐子 | Yuko HASEGAWA

専門研究領域：キュレーション



専門は近・現代美術、および美術館、キュレイトリアルにかかわる歴史、理論研究。

京都大学法学部、東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。
東京都現代美術館 (MOT) チーフ・キュレーター。
多摩美術大学芸術学科教授。

ホイットニー美術館客員キュレーターなどを経て金沢21世紀美術館を立ち上げる。

第7回イスタンブール・ビエンナーレ総合コミッショナー (2001年)、第29回サンパウロ・ビエンナーレ共同キュレーター (2010年)、第12回ヴェネツィア建築ビエンナーレアーティスティック・アドバイザー (2010年)、第11回シャルジャ・ビエンナーレキュレーター (2013年)、など多くの海外展を企画。

著書：「Kazuyo Sejima + Ryue Nishizawa, SANAA:architecture」 (Phaidon Press)、 「Modern Women: Women Artists at the Museum of Modern Art, pp334-351」 (MoMa, New York)、ほか。

上海ロックバンド美術館およびシンガポール現代アートセンター、アドバイザーボード。

住友 文彦 | Fumihiko SUMITOMO

専門研究領域：キュレーション

専門は戦後美術研究、美術館や美術の制度と社会の関係。

東京大学大学院総合文化研究科修了。
2013年10月にオープンしたアーツ前橋の館長。

ICC/NTTインターコミュニケーションセンター、東京都現代美術館などに勤務し、「Possible Futures: アート&テクノロジー過去と未来」展(ICC/東京/2005)、「川俣正[通路]」(東京都現代美術館/東京/2008)、ヨコハマ国際映像祭2009、メディアシティソウル2010(ソウル市美術館)、あいちトリエンナーレ2013などを企画。NPO法人アーツイニシアティブトウキョウ(AIT)の創立メンバー。

国際展：

「Rapt!:20 Contemporary Artists from Japan」展(2006, オーストラリア)

「美麗新世界」展(2007、中国)

共著：『キュレーターになる！』(フィルムアート社、2009年)

“From the Postwar to the Postmodern, Art in Japan 1945-1989: Primary Documents”(Museum of Modern Art New York、2012)。



理論と実践

【理論】 トピック例

- ・ グローバルな思考とをローカルな観察とつなげる思考と理論形成
- ・ 領域横断的な思考と実践
- ・ アートと社会の関係の検証
- ・ コレクションとアーカイヴ
- ・ 情報の分析と総合
- ・ アーティストとのコラボレーション
- ・ 観客論
- ・ 美術館論

【理論と実践の融合】

- 1) 展覧会
リサーチ、コンセプト、作家作品選択、会場構成、カタログ作成、テキスト執筆、エデュケーション、コミュニケーション、記録
new museography、 interface design
- 2) トークセッション、ワークショップなどの企画
テーマ設定、参加者の構成、観客との関係、記録
- 3) 出版物、映像などの制作
- 4) 美術館、インスティテューション、パブリックスペースなどのプロデュースのシミュレーション
- 5) そのほか
テキスト執筆、討論などの演習
空間デザイン、コミュニケーション論、情報デザインなどの調査研究

グローバルな視点でキュレーションを考える

実践例: シャルジャビエンナーレ11(SB11)

タイトル: RE: EMERGE TOWARDS A NEW CULTURAL CARTOGRAPHY

会期: 2013年3月13日 - 5月13日

会場: シャルジャ、UAE

www.sharjahart.org/biennial/sharjah-biennial-11/welcome

移動するアーティストたちは固定した文化のアイデンティティに拘束されず、移動の過程で文化を混交しながらフレキシブルな文化の地図を描き続けている。非西欧圏の作家を主に、モダニズム以前の豊かな文化の記憶を現代に活かそうとする「いま再び立ち現れる」グローバルサウスの創造性を街全体を使って展覧した。



プレスツアーにてシャルジャ首長シェイク・スルタン・ビン・ムハンマド・アル・カシミ殿下を案内



歴史的建築の中のシャルジャ新アートスペース

①町全体をつかったソーシャル・ワークショップ
都市を変える



②パブリックアートの設置
実験的アプローチ



Superflex *The Bank* 2013
Bank Street

③科学的カオス理論と現代アートとイスラムの模様



Gabriel Orozco
I Sand on Table as Model of "Self-Organising Criticality"
1992-2013, SAF Art Spaces Building

④街中での音楽ワークショップ(ローカルミュージシャンと現代音楽家のセッション)



Workshop by Tarek Atoui

グローバルな文脈の中で日本の作家を言説化する

プラクティス例: GLOBALE

GLOBALE, Renaissanceは、自然科学を含む広義のアートに焦点を当て、『グローバル化／グローバリゼーション』をキーワードに、世界を変化させるインターネットを含む技術革新、科学的・社会的発展の為の条件を提示し、世界の現在と未来に新たな方向を示す。

本企画は、世界各国から国際的に活躍するキュレーターたちが選ばれ、同時にフランスの思想家・社会学者ブルノー・ラトゥール (Bruno Latour) やドイツの思想家・芸術理論家ボリス・グロイス (Boris Groys) といった学者が加わり、アートの展覧会と並行して展開される新しい形式の企画である。長谷川祐子がキュレーションする『New Sensorium – Exiting Failures of Modernization』はGLOBALEプログラムのメイン展覧会のひとつである。

・企画タイトル：GLOBALE: The new art experience in the digital age

(Director: Dr. Peter Weibel)

・メイン会場：ZKM / Center for Art and Media、カールスルーエ (ドイツ)

(<http://zkm.de>)



【展覧会主旨】

『New sensorium』展は、モダニズムのもたらした主体中心主義が招いた失敗、ダメージを優しくラディカルに修正、救出に導く非西洋圏のアーティストたちの作品をみせる展覧会である。モダナイゼーションによって人間の活動は加速的に肥大し、人間以外の他の環境を大きく圧迫している。主体—客体を分離する西洋的主体の在り方、人間中心主義がこれらの状況を作り出した。我々をとりまく情報環境の変化、デジタルの発達と環境への浸透により、物(マテリアル)と情報、身体の間に関係は変化しつつある。アジア圏にある、ロゴスの(主知主義的な対象の理解)な回路を経ない、身体と知が融合する直観的な身体知の在り方は、メガデータの解釈、視覚化、物質化において、ユニークな形で反映される。そこでは何がメディア(人に伝えるための媒介)になり得るのかというメディアリティの発見と決定が、身体的、情動的、周囲や環境との関係性という全体性の中で行われていくからである。主体客体、人と物を二分する西欧的モダニズムの世界観に対する懐疑は、ヒトとモノを同じレベルでとらえようとする。思想の潮流としての新唯物論やアクター論は、ヒトとモノ(非人間)を同一の価値のプラットフォームにおくことで人間とこれを取りまく世界環境の間のバランスを修正しようとしている。非西欧圏、特にアジアでは日常的に浸透している、世界に存在する全てのものに霊性を見出すプリミティビズムがあり、ここから、マテリアリズムとメンタリズムの新たな地平が導かれる。アーティストたちはテクノロジーやデジタル情報を有機的に感情を交えて扱い、結果、観客を新たな感情や体験的エンゲイジメントの領域に連れていくことを試みる。多くの80年代以降に生まれたデジタルネイティブのアーティストたちは、この20年間にアジアで起こった急激な資本主義化、都市化の変化の中で、前近代や伝統的な文化的記憶と「現代」とのギャップの中でそれらをつなげたり、断絶したりする不安定でダイナミックな状況にさらされている。その中で人間性を正常に保つための新たな生存環境を作り出す道具として、デジタルメディアを活用したり、政治的社会的環境的クライシスを共有しながら、サバイバルの手段を共創する場としてデジタル空間を使っている。その過程で生まれてきた感覚、知覚はある意味で現実空間のそれとは異なる生産的、批判的、詩的な力を持ち得ている。

【展覧会情報】

- 展覧会名: New Sensorium – Exiting Failures of Modernization
 - キュレーター: 長谷川祐子
 - 会期: 2016年3月4日～8月7日
- <http://zkm.de/en/event/2016/03/globale-new-sensorium>

【出展作家】

- * 高谷史郎 (日本)
- * 名和晃平 (日本)
- * ライゾマティックス / 真鍋大度 (日本)
- * スブツニ子! (日本)
- * 森山未来 (日本)
- * ナイル・ケティング (日本)
- * ヴァリア・フェティソブ (ロシア)
- * リン・ク (中国)
- * タラ・ケルトン (インド)
- * タレク・アトゥイ (レバノン)
- * マグディ・ムスタファ (エジプト)
- * Raqs Media Collective (インド)
- * ローヒニー・ディヴェーシャル (インド)
- * サダーン・アフフィ (イラン・フランス)
- * ブルース・クエック (シンガポール)
- * キングスレー・ン (香港)



名和晃平 展示プラン

美術館をプロデュース: 変化の時代の美術館の新しいあり方の研究とシミュレーション

金沢21世紀美術館

美術館のプログラムと建築のプログラムの交差点



Share, Participate
Evaluate
Socially Interactive
Intellectually Provocative

コンセプトを反映した美術館ダイアグラム

コレクションと展覧会プログラム、建築の関係
コレクション収集のためのキーワード(1990年代以降の作品に主たるフォーカスをおく)

1. Displacement and transgression
2. Non-materiality
3. Generation and ecology
4. Everydayness and specificity
5. Quotation and reproduction
6. Participation and collaboration

建物と一体となったコミッションワーク



マイケル・リン
市民ギャラリー(2004.10.9 - 2015.03.21)
(2004)



ガブリエル・オロスコ
「Ping-Pond Table」(1998)



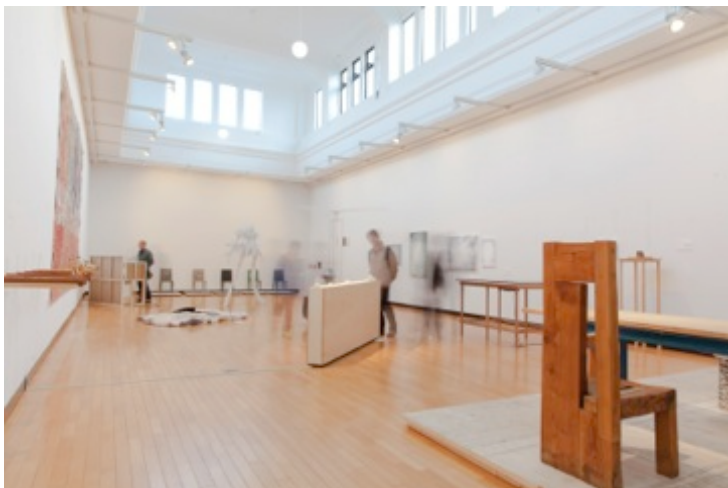
レアンドロ・エルリッヒ
「Swimming Pool」(2004)



村上隆「Cosmos」(1998)

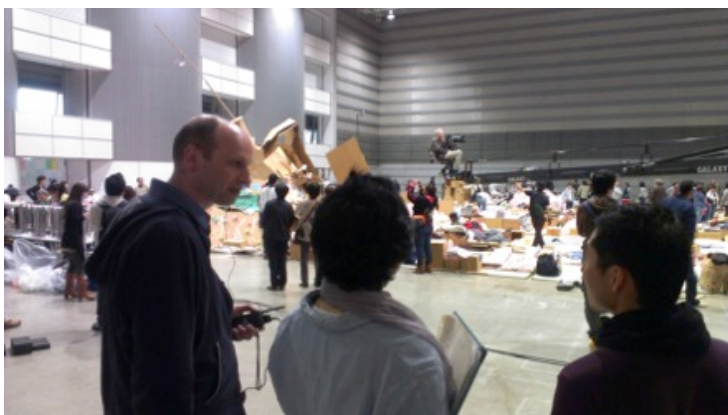
演習科目例

① 展覧会設計



藝大美術館陳列館

② アーティストとのプロジェクト



アーノウト・ミックの福島での撮影風景

③ アーティストを交えたディスカッション企画



スペイン人の作家やグライズデルアーツのディレクター、地域住民やアーティスト、農家の人たちとの農業や食についてのディスカッションテーブル

国際交流プログラム & 海外ゲスト講師による集中講義

海外ゲスト講師：アンセルム・フランケ



ベルリン在住。「世界文化の家(The Haus der Kulturen der Welt)」ディレクター。2012年台北ビエンナーレ・キュレーター。2014年上海ビエンナーレ・キュレーター。

海外芸術研究機関との交流：NTU Centre for Contemporary Art Singapore



アート・マネジメント | Arts Management

箕口 一美 | Kazumi MINOGUCHI

専門研究領域 : アート・マネジメント

音楽マネジメント

国際基督教大学教養学部人文科学科(西洋古典学専攻)卒業。



コンサートホールにおける主催公演、コミュニティエンゲージメントの基本設計、企画・制作が専門。カザルスホール、第一生命ホール、サントリーホールで企画制作にたずさわる一方、クラシック音楽アーティストとともにアウトリーチやワークショップなどのコミュニティ・エンゲージメント活動の普及・推進に取り組み、地域密着型アートNPOトリトン・アーツ・ネットワーク設立に参画。室内楽を中心に、音楽家、アーツセンター、音楽大学、音楽祭とのグローバル・ネットワークを活かしたプロジェクトも積極的に進めている。

熊倉 純子 | Sumiko KUMAKURA

専門研究領域 : アート・マネジメント

文化政策、アート・マネジメント



現在、本学音楽学部音楽環境創造科教授。

パリ第十大学、慶應義塾大学文学部仏文科および美学・美術史学科卒業。同大学院修了（哲学専攻）。1992年から2002年まで（社）企業メセナ協議会に勤務。

関連事業・監修：

「取手アートプロジェクト」

「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」

『アートプロジェクト 芸術と共創する社会』
（水曜社、2014）監修など。

アート・マネジメント | Arts Management

美術・音楽・映像などさまざまな領域のアートマネジメントのあり方を、その理論と歴史を踏まえつつ、主として〈現場〉における実践を中心に学ぶ。

担当教員：熊倉純子・箕口一美



大巻伸嗣『Memorial Rebirth 千住 2014』



大友良英『千住フライングオーケストラ』



「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」
東京藝術大学音楽学部・NPO法人音まち計画の連携のもと展開するアートプロジェクト。
参加アーティストは大友良英、大巻伸嗣、野村誠など。



アート・マネジメントに関わる主な論文タイトル

(音楽文化学専攻芸術環境創造領域修士論文より抜粋)

- アーティスト・イン・レジデンスの今日的意義
- アートNPOが牽引する自治体文化政策
- 公共ホールにおける市民企画事業の方法論に関する考察
- 芸術活動における「社会的障壁」の諸相
- クラシック音楽の演奏家とつくる創造的なワークショップの可能性
- 文化の担い手としてのコンサルタントの重要性ーアートを仕掛ける第三者によるコンサルティングの存在ー
- コミュニケーションデザインとしてのアートプロジェクトー人々の行動を変容させる可能性を考えるー
- 多文化共生の動的状態を生み出すコンタクト・ゾーンとしての芸術活動ー「イミグレーション・ミュージアム・東京」を事例にー
- 釜ヶ崎における支援活動と芸術活動の比較ー「NPO法人こえところとことばの部屋」を中心にー
- 1970年代の野外彫刻展におけるアーティストの社会に対する意識ー「所沢野外彫刻美術展」を事例に
- アートプロジェクトと地域コミュニティの共働における地域リーダーの存在ー

など

リサーチ | Research

リサーチ | Research

芸術文化を社会学、メディア文化研究、文化経済学、文化政策学などの社会科学的な視点から調査・研究しながら、その社会との関係を考察し、今後の在り方を研究する。

担当教員：枝川明敬・毛利嘉孝



枝川 明敬 | Akitoshi EDAGAWA

専門研究領域：リサーチ

文化政策, 地域文化振興論



特に、文化芸術を核とした地域づくりと芸術と社会、芸術の固有価値について研究。

1977年 名古屋大学卒業、文部省（現文部科学省）入省。総務省、文化庁を経て、1995年埼玉大学大学院政策科学研究科助教授。政策研究大学院大学、国立情報学研究所を経て、2000年、名古屋大学教授。2004年から、東京芸術大学教授。名古屋大学客員教授ほか。

工学博士（建築学）、経済学修士、日本地域学会著作賞（2007年）

枝川 明敬 | Akitoshi EDAGAWA



主要著作

『文化芸術への支援の論理と実際』(東京芸大出版会)

『文化芸術の経営・政策論』『新時代の文化振興論』
(以上、小学館スクウェア)

COMPARING Cultural Policy (Alta Mila, CA. USA)

『文化経済学』(有斐閣)

『文化政策概論』『美術館政策論』『文化会館通論』
『文化財政策概論 (以上、晃陽書房)

『芸術文化の振興と文化財の保護』
(放送教育振興会、放送大学教材)

『文化財政策概論』(東海大学出版会)

2014年には、台湾大学から招聘講演を受け、東亞思想交流史国際學術研究会で「日本政府對於藝術的支援與其理論」として、芸術支援面の論理を発表

毛利 嘉孝 | Yoshitaka MOURI

専門研究領域：リサーチ
社会学、メディア・文化研究

現在、本学音楽学部音楽環境創造科准教授。

京都大学経済学部卒。ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ MA（メディア&コミュニケーションズ）、同PhD（社会学）。九州大学大学院助手・助教授を経て現職。Inter-Asia Cultural Studies (Routledge) 編集委員。

主著：

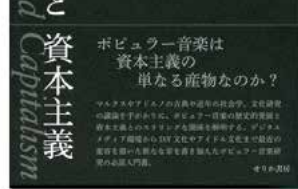
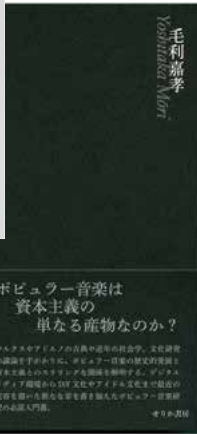
『ストリート思想：転換期としての90年代』
(2009年、NHK出版)

『文化＝政治：グローバリゼーション時代の空間の叛乱』
(2003年、月曜社)

『ポピュラー音楽と資本主義』 (2007年、せりか書房) など。



毛利 嘉孝 | Yoshitaka MOURI



メディア環境の劇的な変容を理論的に見出すために、マンガウツ、ハンセン、マッスミ等の重要な論考を収録するとともに、デジタル・デモクラシー、クリエイティブ産業、アーカイブ研究等、斬新な視点から現代の情報・メディア現象を分析したメディア研究の最新の成果。



最近の論文

Mōri, Y. (2015), 'New Collectivism, Participation and Politics after the East Japan Great Earthquake', *World Art*, Routledge/Taylor & Francis, vol.5 issue 2: London (Forthcoming)

Mōri, Y. (2014) 'J-Pop Goes the World: A New Global Fandom in the Age of Digital Media' *Made in Japan: Studies in Popular Music*, T. Mitsui (Ed), Routledge: London, pp. 211-223,

Mōri, Y. (2011) 'The Pitfall Facing the Cool Japan Project: The Transnational Development of the Anime Industry under the Condition of Post-Fordism' *International Journal of Japanese Sociology*, The Japan Sociological Society, Wiley-Blackwell: London, No 20, pp.30-42

北九州国際ビエンナーレ
KITAKYUSHU BIENNIAL 2009

移民

IMIN: Migrants, Immigrants, Emigrants, Refugees, Exiles, Expatriates and Others

10/10(土)-11/15(日) (休館: 大寒)
会場: 北九州国際センター GALLERY SOAP
観覧料: 1,000 - 1,500 (学生・高齢者 500)
2. 入館 観覧券の提示が必要
M

入学試験について

試験日程（予告）

入学予定者数：10名程度

一般入試：平成27年9月～10月実施

外国人特別入試：平成28年2月～3月実施

一般入試（予定）

募集要項配布：平成27年9月1日（火）

願書提出締切：平成27年9月11日（金）

試験期間：平成27年9月下旬

- ・一次審査：書類審査・英語試験
- ・二次審査：面接試験 一次審査合格発表時に日程揭示

一般入試最終合格発表：平成27年10月上旬

外国人特別入試：平成28年2月

入学手続き：平成28年3月中旬

一次審査

書類審査

- ① 志望理由書 (A4・1枚・指定様式)
- ② 研究計画書 (A4・1～2枚・自由様式)
- ③ 学部卒論あるいは入学後の専攻分野に関する論考 (4000字または英語2000words)
- ④ 推薦状 (1通)

※出願の際に志望分野 (アートマネジメント、キュレーション、リサーチ) を明記する必要あり

英語試験

本年度は専攻独自の記述試験を実施 / 辞書使用可
※次年度以降はTOEFL等による外部試験に移行予定。

二次審査

面接

- ・ 提出された書類に即した試問を行う
- ・ 質疑応答を含め1人20分程度で実施予定

※ 日程は受験票発行時に発表する